2007年6月6日プラトン第22回BBLレジュメ

「政治は「格差」を語れるか―現代日本における「希望」の行方」

2007年6月6日

宇野重規（東京大学社会科学研究所）
uno@iss.u-tokyo.ac.jp

1　希望の格差社会
ほんとうに「格差社会」なのか？
主観的意識における格差の拡大
「将来についての希望」の格差

2　希望は「心」の問題なのか？
「フリーター」から「ニート」へ
「引きこもり」と「ニート」
「ニート」を生み出す社会経済構造
社会経済構造と主観的意識の「ずれ」

3　希望が問題とされる時代
「自己責任」の時代
自己点検、自己評価、自己規律化の文化
残される動機の問題
今の段階で結果をはかれない仕事への関与

4　政治は希望の問題にどう取り組むべきか
各個人が「将来についての希望」を持てるために
ジョン・ロールズの正義論：市民の人生の見込みに関する不平等の是正
アマルティア・センの福祉論：各個人にどれだけ「生き方の幅」が許されているか

5　むすび
社会の基本的原理への信頼感の醸成
集団的アプローチから個人的アプローチへ

参考文献

山田昌弘『希望格差社会』（ちくま文庫）
玄田有史・曲沼美恵『ニート：フリーターでもなく失業者でもなく』（幻冬社文庫）
春日直樹『＜遅れ＞の思考』（東京大学出版会）
ジョン・ロールズ『公正としての正義再説』（岩波書店）
アマルティア・セン『不平等の再検討：潜在能力と自由』（岩波書店）
コリン・クラウチ『ポスト・デモクラシー：格差拡大の政策を生む政治構造』（青灯社）